

「JXTG児童文化賞」および「JXTG音楽賞」の選考委員プロフィール

【児童文化賞】



野上 暁 氏（児童文化研究家）

中央大学卒業。日本ペンクラブ常務理事。日本国際児童図書評議会副会長。日本児童文学学会会員。東京純心大学こども文化学科客員教授。著書に『おもちゃと遊び』、『“子ども”というリアル』、『子ども学 その源流へ』、『越境する児童文学』、『子ども文化の現代史』、共編著に『こどもの本ハンドブック』、『いま子どもに読ませたい本』、『明日の平和をさがす本』など。



仲居 宏二 氏（放送コンサルタント・元聖心女子大学教授）

早稲田大学第一文学部哲学科卒業。NHKでは主に教育教養番組制作。学校放送番組部長、日本賞コンクール事務局長を経て、関連会社NHKエデュケーショナル常務取締役後、ポツワナ教育テレビ開設に引き続き、現在ベトナム、マラウイ、バングラデシュ、などの教育チャンネルのコンサルタントに当たっている。2012年より聖心女子大学教授を務め、2015年より同大学非常勤講師。



山極 壽一 氏（京都大学総長）

京都大学大学院理学研究科修士課程修了。京都大学理学博士。人類学者、霊長類学者、ゴリラを主たる研究対象としている。（財）モンキーセンター リサーチフェロー、京都大学霊長類研究所助手、同大学院理学研究科助教授、教授を経て、現在京都大学総長。著書に『家族進化論』、『「サル化」する人間社会』、『京大式おもしろい勉強法』などがある。

【音楽賞 邦楽部門】



徳丸 吉彦 氏

(聖徳大学教授・京都市立芸術大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授)

東京大学文学部卒業。ラヴァール大学(カナダ)より博士号。国立音楽大学・お茶の水女子大学・放送大学を経て現在は聖徳大学教授、京都市立芸術大学客員教授、お茶の水女子大学名誉教授。日本語による最近の著作は『ミュージックスとの付き合い方：民族音楽学の拡がり』。他に『三味線音楽の旋律の様相』(仏語)、『音楽・記号・間テキスト性』(英独仏語)、共編に『ガーランド世界音楽辞典7：東アジア』(英語)がある。



塚原 康子 氏 (東京藝術大学教授)

東京藝術大学大学院音楽研究科博士後期課程修了(学術博士)。現在、東京藝術大学楽理科教授。とくに近代を中心とする日本音楽史を専攻し、主要著書に『十九世紀の日本における西洋音楽の受容』、『明治国家と雅楽』、共著に『はじめての音楽史』、『日本の伝統芸能講座—音楽—』など。



加納 マリ 氏 (日本音楽研究家)

武蔵野音楽大学大学院音楽研究科(音楽学専攻)修了。武蔵野音楽大学講師。日本音楽史を専門に、雅楽、地方の舞楽、長唄、胡弓などを研究。文化庁芸術祭審査委員(音楽)、文化庁「次代を担う子どもの芸術体験事業」企画委員(伝統芸能)、文化庁芸術選奨選考委員(音楽)、国立劇場邦楽公演専門委員などを務める。

【音楽賞 洋楽部門】



関根 礼子 氏 (音楽評論家)

国立音楽大学楽理学科卒。音楽旬報社勤務中から音楽評論活動を行い、1981年よりフリー。現在、昭和音楽大学オペラ研究所嘱託研究員、『日本のオペラ年鑑』編纂委員、三菱UFJ信託芸術文化財団理事、東京オペラシティ文化財団理事、ニッセイ文化振興財団理事ほか。著書に『オペラの世界』、『日本オペラ史1953～』、共著に『オペラ事典』など。



中村 孝義 氏 (大阪音楽大学理事長・名誉教授)

関西学院大学大学院文学研究科博士課程修了。ヴェルツブルク大学音楽学研究所客員研究員、大阪音楽大学教授、同大学ザ・カレッジ・オペラハウス館長、大学院研究科長・学長を経て現在、理事長・名誉教授。さらに日本音楽芸術マネジメント学会理事長、(独法)日本芸術文化振興会運営委員会委員長、(公財)ロームミュージックファンデーション、(公財)アフィニス文化財団、(公財)花王芸術・科学財団など、多くの財団の理事や評議員を務める。著書に『室内楽の歴史』、『ベートーヴェン 器楽・室内楽の宇宙』、『音楽の窓』など。



諸石 幸生 氏 (音楽評論家)

早稲田大学法学部卒。(財)音楽鑑賞教育振興会において鑑賞指導法の研究を行うとともに、20世紀の演奏家を網羅した『演奏家大事典』の編集・刊行を行う。その後、音楽評論活動をはじめ、雑誌、新聞への執筆、および放送番組解説などを行う。著書に『トスカニーニ、その生涯と芸術』、『クラシック新鮮組』、『クラシック超名盤100』など。